

「舞台美術」に準ずる授業体験を通して得られた 創造的効果の検討

—高校生に向けて行われた授業から—

A Study on the Creative Effects obtained through the Experience of the Class
that based on the Scenic Design

— From the One gives to High School Students —

上田 淳子
(Junko UEDA)

キーワード：舞台美術、合評会、創造的効果

Key Words：scenic design, joint review meeting, creative effect

I. はじめに

1. 研究の背景

「舞台美術」に準ずる授業（「舞台技術入門・舞台美術編」）の「合評会」について、これまでコミュニケーション・スキルの向上（上田, 2009, 2010, 2011, 2015）、授業目的の理解（上田, 2013）、自己成長（上田, 2013）の観点から検討を行った。総合芸術である舞台芸術活動の一要素の舞台美術は、自分の意見や考えを尊重すると同時に他者意見も受容する姿勢を取り、より良い舞台芸術作品を創るという共通目的のもと他分野と「美術打ち合わせ」を繰り返し行い舞台美術デザインが決定をする。そして、この「美術打ち合わせ」にアサーションの概念である自他相互尊重の自己表現が行われるプロセスとの類似点を見出し、「美術打ち合わせ」に相当する「合評会」体験を通して、コミュニケーション・スキル向上への一助と成り得る可能性を示唆した。しかし、美術教育の面から捉えると、舞台美術に関する研究はみられない。

そこで、本研究では、高等学校学習指導要領の美術編¹⁾で目標とされている表現活動を通して「表現の技能を身に付け表現する能力」「発想し構想する能力」を、技術の向上とイメージ力や発想の広がりとして、「舞台美術」に準ずる授業体験を通して得ることができるか検討をする。

まず、舞台美術家における「美術打ち合わせ」の意味に触れ、本研究での「合評会」について説明し、創造的効果の意味と、「グループ学習」、美術教育「ポートフォリオ」の観点から教育的意義について述べ、「舞台美術」に準ずる授業体験を通して創造的効果がみられるかを考察していく。

うえだじゅんこ：目白大学短期大学部非常勤講師

2. 舞台美術家における「美術打ち合わせ」の意味

実際の舞台芸術活動における舞台美術家は、「美術打ち合わせ」で自分のイメージを演出家など共同制作者にわかりやすく伝える為、種々行われる舞台の内容に適した表現方法を模索し制作に努める。そして、舞台美術デザイン画作成への努力を続けることで様々な表現方法を習得し技術が向上すると共に、舞台上演における演出家からの提示や要求が新たな発想やイメージの広がりを得ることになり、「美術打ち合わせ」は舞台美術家にとって、その他の舞台芸術制作においても大いに役立つ機会となっている。

舞台美術家河野国夫（1969）は、「演出者との打ち合わせを何度も持つということから装置プランは一つ一つの確信の上に立ち、より細部に渡りより具体的な意見交換が可能になる。」と述べ、「美術打ち合わせ」は、イメージの明解化に役立つものと捉えている。同じく舞台美術家伊藤憲朔（1955）は、他者に伝えることを目的として描く舞台設計図について「説明図であると同時に絵画的にすぐれていなければならず、その様なものを描くべく努力をしなければならない。」と、舞台芸術という共同作業において個々が抱くイメージの世界を共通認識としてより正確に具現化し伝える為、作画技術の向上を追求すべく舞台美術家の基本姿勢を説いている。この様に「美術打ち合わせ」は、舞台美術家に弛まぬ努力を積み臨むことが求められているが、技術の向上やイメージ力、発想の広がりを獲得する場となり芸術家としての成長を促す意味を持つ。

3. 「舞台美術」に準ずる授業の「合評会」と創造的効果について

本研究の「合評会」については、まず、舞台美術家が初めに行う様に生徒が個々に課題の戯曲からテーマを読み取り、情景をイメージしてからラフ画の舞台デザイン画を作成する。そして、実際の舞台芸術活動でラフ画を提示し他分野とのイメージのすり合わせを行う「美術打ち合わせ」の形式に従い、生徒が作画したラフ画をもとに第1回グループ合評会を行う。このグループ合評会では、発表者は舞台美術家という立場になり、読み取った戯曲のテーマやイメージした情景、描きたい世界観、描いた舞台美術デザインなどの説明をラフ画と共に伝え、聴衆側の生徒は演出家などの立場に立ち発表を聞き作品に対する意見や質問をする。

そして、「合評会」は、第1回グループ合評会、第2回グループ合評会、第3回クラス合評会と回数を重ねて実施する。これは、実際の舞台芸術活動でも、舞台美術のデザイン決定には複数回の「美術打ち合わせ」を要する為、授業回数を考慮し3回の「合評会」を実施している。生徒はこの3回の「合評会」を経験することで、他者の意見や考えに直接触れることから得た気づきや発見を自分の作品にフィードバックするプロセスを踏み、その全ては生徒自身の力によって作品を完成する。自分の作品について他者と意見交換を重ねながら作画した作品を伴い行う「合評会」体験から、生徒はコミュニケーション・スキルの向上と共に、舞台美術家が技術の向上やイメージ力、発想の広がりを獲得する様に、自分が意図する舞台美術デザイン画を他の生徒に分かってもらいたいという動機づけに支えられ技術の向上を促し、また、他の

生徒からの意見やアドバイスを受けることで不明確であったイメージが明確になり発想の広がりにも繋がり、「合評会」を通して技術の向上やイメージ力、発想の広がりが得られるものと考ええる。

作画の向上変化については、E.W.ワトスンとA.A.ワトスンは、「輪郭が正確に描写されているデッサンや見たものを忠実に再現できている作画など、上手なものが良いと限定せずに、美術を一つの表現言語と考えれば、誰にでもそれぞれ言いたいことがあり、それぞれ個性的な方法で自分を表現すべき。」として、表現したい気持ちがあつて描かれた絵こそ「よい画」であると述べている。また、両者は「よい絵とは、解剖学、植物学、その他の科学的正しさがどうであれ内的価値を破壊せずには改革できない画のことである。」とのカンデンスキーの言葉も引用し、表現を支える内的作用の高まりを感じ取りその様に作画することの大切さを説いている。

そこで、本研究では、生徒が個々に戯曲のテーマを読み取り抱いた情景を基に作画した舞台美術デザイン画が、合評会を伴い繰り返し作画を行うプロセスを通して、自分が描きたいとイメージしているデザイン画になっているか、という点から舞台美術デザイン画にみられる技術の向上やイメージ力、発想の広がりが見られたと捉えることとした。具体的には、ドアや机などの造形物が、イメージし描きたいと思っているよう描ける様になり、物の厚みや高さ、床に配置している状態などもイメージした通りに作画ができるようになってきていることを技術の向上とし、戯曲の読み取りからイメージした情景を絵に反映をすることから始まり、発展してイメージが膨らみ、描く素材を足したり削除したりしながらイメージの再現に具体性が増し、曖昧であった部分が明確に表現できている様になっていることを、イメージ力や発想の広がりがあつたとして、この2点を創造的効果と捉えることとする。

4. 「グループ学習」に基づく「合評会」の意義

次に、「合評会」の意義をグループ学習の観点から述べる。鷺尾（2012）は、グループ学習で学生同士の関わり合いの中から主体性や気づきが起こるとし、鷺尾・白井・下村（2013）は、学生相互の学び合いが、学びの深まりと広がりを起こし有効であるとグループ学習の意義を実践授業で報告している。本研究の「合評会」では、自分の力で作画した作品を他の生徒との意見交換を踏まえフィードバックし発展させることを意図して行っており、グループ学習の一つ「協調学習」²⁾の要素が含まれていると思われる。さらに、他分野との「美術打ち合わせ」に臨む舞台美術家同様、「合評会」にて聴衆する側の生徒達に自分のイメージを正確に伝えたい、その為にも上手になりたいという動機づけが、鷺尾（2012）の述べる主体性を育み作品への取り組み意識に変化が生まれ完成度を上げ技術向上に繋がるものと考ええる。

そして、江川（2010）³⁾は、グループ学習に模倣を取り入れた学習方法の有効性を唱えている。本研究の「合評会」は、他者の作品を見て感想や意見を言う場でもあり、自分には足りないと感じたり優れていると思われる他者の技術や考えに直接触れることが刺激となり、学びの模倣をする機会となる。この模倣を通じて作品を完成へと導くプロセスの中で、技術向上の効

果についても期待ができ、「合評会」は模倣というグループ学習効果も有していると考ええる。

5. 繰り返しの作画を伴う「合評会」と美術教育「ポートフォリオ」について

また、第1回鉛筆ラフ画、第2回鉛筆ラフ画、第3回着色完成画と繰り返しの作画を伴う「合評会」の意義について、美術教育のポートフォリオの観点から述べると、前述の通り舞台美術家は、「美術打ち合わせ」で修正作画を繰り返してデザイン決定に繋がっていく。その為、打ち合わせに使用したイメージデザイン画（ラフ画）はポートフォリオを用いて時系列に保存し、保存しているイメージデザイン画（ラフ画）を参照しながら「美術打ち合わせ」で話し合われた事項を検討したり、プロセスの振り返りや再確認が必要な際に見直してデザインの熟成を行い新たな発想やイメージ喚起に役立たせている。

一般にポートフォリオとは、「紙ばさみ」「個人の作品集」、金融では「資産構成」、画家・写真家・デザイナーは「自分の作品を整理しまとめたもの」、現在では「自分をアピールする為の経歴資料」等の意味で用いられるが、美術教育の一つ「ハーバード・プロジェクト・ゼロ⁴⁾（以下「プロジェクト・ゼロ」）における「ポートフォリオ」がある。池内（2001）は、「プロジェクト・ゼロ」でのポートフォリオは、「制作の進歩」（work in progress）を見るもので5つの中心概念⁵⁾をもつとしている。その中の（1）制作の過程（学習の過程）、（2）振り返り（reflection）、（5）学習の質の3点が、本研究の「合評会」に伴う作画の意味づけに相当するものと考ええる。

まず、第1回ラフ画を第1回グループ合評会体験後得た気づきや反省と共に見つめ直し、構想を深めて第2回グループ合評会に向け第2回ラフ画を作成する。ここでは、（2）振り返り（reflection）一生徒が自発的に「反省」が行われることによって、次の制作にそれを活かすことができる（池内, 2001）、を行う場となり次の作画に向けて活かす機会となる。そして、第2回ラフ画についても第2回グループ合評会体験後、同様の（2）振り返りに伴う効果を得る。ここでは、第1回ラフ画、第2回ラフ画と作品数が増えることで制作過程の場もそれぞれに与えられ学びの場の充実が図られ、（1）制作の過程（学習の過程）—芸術の学びは制作過程でおこる。芸術系ポートフォリオでは、作品の制作過程それ自体が学習である（池内, 2001）ことの実践になっている。さらに、第3回クラス合評会に向け第3回完成画を作成するプロセスを踏むが第1回、第2回グループ合評会で反省や気づきを得ながら第1回、第2回ラフ画を作成しそれらを統合して作成した第3回完成画は（5）学習の質—自分で得た知識を組み立てて、それらの知識を応用し、統合して、作品を完成していく（池内, 2001）、に類するものと思われる。

この様に、作画を繰り返す行背景は、第1回グループ合評会、第2回グループ合評会、第3回クラス合評会という場が設定をされていることに由る。「プロジェクト・ゼロ」のポート・フォリオの中心概念に類する要素を持ち合わせた「合評会」は、美術教育という観点からも技術向上やイメージ力・発想の広まりについて意義のあるもので、その基盤となっている

舞台美術の「美術打ち合わせ」は、教育的要素を兼ね備えた芸術活動であると考えられる。

6. 研究の目的

これまで、「舞台美術」に準ずる授業の「合評会」について、舞台美術の「美術打ち合わせ」を基に説明をした。そして、「グループ学習」、美術教育「ポートフォリオ」の観点から教育的意義を述べた。

本研究では、高校生が「舞台美術」に準ずる授業の「合評会」体験を通して、生徒の作画技術の向上とイメージ力や発想の広がりという創造的効果がみられるか検討を行い、舞台美術が舞台芸術活動に留まらず、美術教育としての可能性について探ることを目的とする。

II. 方法

1. 調査対象者

埼玉県立G高等学校の舞台芸術科にて「舞台技術入門・舞台美術編」⁶⁾授業を受講した1年生を対象とし、3回の合評会と質問紙調査全てに出席した生徒を被調査者とした。該当生徒の数は2012年度38名、2013年度17名、2014年度36名の合計91名であった。

2. 「舞台技術入門・舞台美術編」授業の概要と使用教材

授業は毎年秋学期の10月から翌年2月にかけて、毎週水曜日の2限目（10：00～10：50）と10分間の休憩後の3限目（11：00～11：50）の連続授業形式で行った。主な授業の概要は図1に示す。教材は、毎年度共通で「家族でお食事ゆめうつつ」（中野成樹／潤色（大学演劇実習用）Thornton Niven Wilder（ソーントン・ワイルダー）原作／『The Long Christmas Dinner』）を使用した。

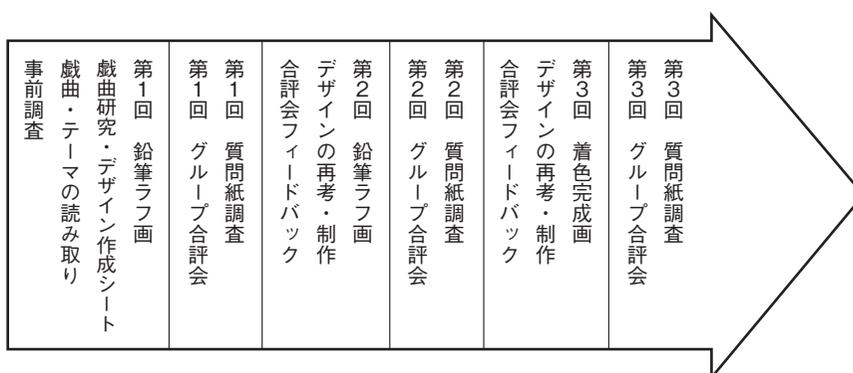


図1 「舞台技術入門・舞台美術編」授業の概要

3. 質問紙調査の実施日

質問紙調査は事前調査と合評会後調査3回の計4回行い、実施日は事前調査から順に、2012年度は12月5日、12月19日、2013年1月16日、2月20日、2013年度は11月20日、12月4日、2014年1月8日、2月19日、2014年度は11月12日、11月26日、12月17日、第3回クラス合評会はこれまでの研究課題を踏まえ、一人に対する合評会の時間確保を目的に2回に分け2015年2月4日と18日に行い、第3回質問紙調査は2月18日に実施した。

4. 手続き

事前調査は、舞台美術のデザイン着手前の段階で行い、合評会後の調査は、授業担当の著者が合評会を終了した時点で用紙を配布し実施した。質問紙調査は全て授業時間内にて行い、所用時間は約15～20分であった。全員へのアンケート用紙の配布を確認後、調査実施前に、質問紙調査は授業内容の向上を目的とし研究資料として活用することを伝え、答えたくない質問については拒否をしてもかまわない、個人を特定したり成績に影響することは一切ないので何ら不利益は生じない、ということクラス全員に口頭で告げた。

5. 質問項目

5-1 事前調査：「話し合う」ことについて

他者と「話し合う」ことについて自分はどうであるか、自由記述で回答を求めた。質問項目は、①「人と話すことについて自分は、」②「人前で話すことについて自分は、」③「人に意見をすることについて自分は、」④「人の意見を聞くことについて自分は、」⑤「人から意見をされることについて自分は、」の5項目である。

5-2 第1回質問紙調査～第3回質問紙調査

全ての質問紙調査で、「1. 合評会について」と「2. 舞台デザイン画を作成したことについて」各々3項目を提示し自由記述で回答を求めた。そして、「A. 合評会を体験して経験したこと」について自由記述による回答と6項目について「1. 全くあてはまらない」から「5. 非常によくあてはまる」の5件法で回答を求めた。「B. 合評会を体験して変化したこと」についての自由記述による回答と5項目についても同様に回答を求めた。質問内容は、IV. 1-1、表2・1-2、表3・1-3、表4に記す。

6. 分析の手続き

評価者は授業担当及び実施者の著者と、高校の科目担当教員の計2名であった。評価の基準は、I. 3. で前述した作画の向上変化の観点から、戯曲の読み取りを踏まえ自分が描きたいとイメージしているデザイン画になっているかイメージの具体化を基準とし、イメージした作画ができるようになってきている状態を向上、特に変化が見られなければ変化無し、前作品より

具体性が無くなり、前作品の方が優れていると思われるものを下降とした。

評価方法は、生徒一人一人の作品を時系列に並べ、(1) 第1回鉛筆ラフ画と第2回鉛筆ラフ画 (2) 第2回鉛筆ラフ画と第3回着色完成画 (3) 第1回鉛筆ラフ画と第3回着色完成画の組み合わせで比較し、技術の変化とイメージ・発想の変化について、2名の評価者が個別に一人の生徒について評価をした後照合を行い、評価が異なる場合は、協同評価⁷⁾に準じて見解や意見を述べ、話し合いのもと統一の評価を決定した。

Ⅲ. 結果と考察

1. 作品の変化について

3回の作画、合評会、質問紙調査全てに出席した生徒、2012年度(38名)、2013年度(17名)、2014年度(36名)、3年分の合計(91名)について、①技術の変化②イメージ・発想の変化を向上・変化無し・下降の3点から検討した結果は表1と図2・3のとおりである。

1-1 技術面での変化

第1回鉛筆ラフ画と第2回鉛筆ラフ画を比較して技術面の変化を検討したところ、2012年、2013年、2014年、3年分の合計では、向上したと思われる生徒数が他の評価に比べて最も多

表1 技術・イメージの変化

2012年 技術・イメージの変化の集計						
2012年 (n=38)	〈技術面〉			〈イメージ・発想面〉		
	向上	変化無し	下降	向上	変化無し	下降
第1回→第2回(n)	19	17	2	29	7	2
第2回→第3回(n)	13	15	10	19	13	6
第1回→第3回(n)	20	8	10	26	3	9
2013年 技術・イメージの変化の集計						
2013年 (n=17)	〈技術面〉			〈イメージ・発想面〉		
	向上	変化無し	下降	向上	変化無し	下降
第1回→第2回(n)	9	5	3	14	1	2
第2回→第3回(n)	9	6	2	8	6	3
第1回→第3回(n)	13	2	2	14	2	1
2014年 技術・イメージの変化の集計						
2014年 (n=36)	〈技術面〉			〈イメージ・発想面〉		
	向上	変化無し	下降	向上	変化無し	下降
第1回→第2回(n)	23	11	2	28	5	3
第2回→第3回(n)	11	17	8	17	15	4
第1回→第3回(n)	23	6	7	32	2	2
3年分 技術・イメージの変化の集計						
3年分 (n=91)	〈技術面〉			〈イメージ・発想面〉		
	向上	変化無し	下降	向上	変化無し	下降
第1回→第2回(n)	51	33	7	71	13	7
第2回→第3回(n)	33	38	20	44	34	13
第1回→第3回(n)	56	16	19	72	7	12

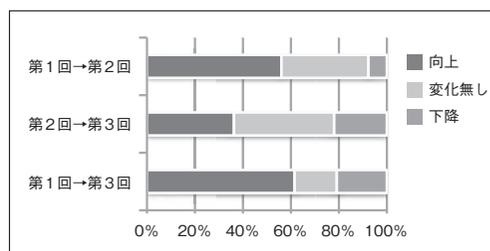


図2 3年分合計技術面での変化の傾向

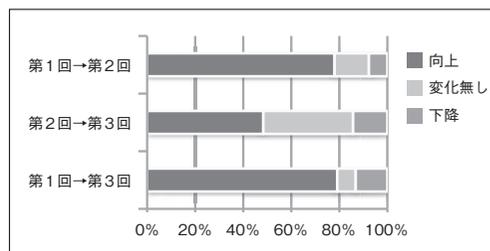


図3 3年分合計イメージ・発想面での変化の傾向

かった。しかし、第2回鉛筆ラフ画と第3回着色完成画については、2013年を除く2012年、2014年、3年分の合計で、変化が見られなかった生徒数が最も多かった。教育的効果を検討する為、合評会体験前の第1回鉛筆ラフ画と授業計画の最終項目となる第3回着色完成画を比較して技術面の変化を検討したところ、各年度や3年分の合計の調査全てにおいて、向上したと思われる生徒数が他の評価に比べて最も多かった。

第1回ラフ画は合評会前の技術状態であった。しかし、第2回ラフ画は第1回グループ合評会体験後の作品であることから、合評会での話し合いや会員同士の作品鑑賞が作画意欲を高めるグループ学習効果として現れ、不明瞭な部分に具体性をもち第2回ラフ画が向上したという印象を与えた仕上がりになったと考えられる。

該当する生徒の自由記述に「人の発表を聞いて、ここをこうしよう！など自分の作品ももっと広がった。」「一人でもラフ画の手直しができると思っていたが、たくさんの方がヒントをもっているの、たずさわってもらってできる2回目だと心が変化した。」などがあり、他者との話し合いや考えを自分の作品に反映しながら参加をしている姿勢が作品の具体化へ向けて技術を高める要因になったと考えられる。また、「自分が描けないものを描いている人がいるから教えてもらいできるようになった。」と、協調学習の効果を体験した生徒もいたことから、本研究の合評会は生徒同士の相互作用が学びに影響を与え、それが技術面に表れたと取ることができ創造的効果があったものと思われる。

しかし、第2回鉛筆ラフ画と第3回着色完成画の比較の結果については、第2回鉛筆ラフ画である程度の具体化に到達した為、さらに描きこむまでには至らなかったのではないだろうか。該当する生徒は「2回目は工夫したことが沢山あった。」「2回目はまだ欠点はあるものの、それなりに満足のいく作品になった。」と、第2回鉛筆ラフ画が自分の中である程度完成形になっていたと思われ、第3回着色完成画は修正したり描き加えることよりも仕上げることに集中したのではないだろうか。また、「完成画は色をつけるということで、あまり考えていなかったので少し悩みました。」の自由記述から、第3回で着色をするという技術面での新たな課題に対応ができなかったことも要因として考えられる。

1-2 イメージ・発想面での変化

次に、第1回鉛筆ラフ画と第2回鉛筆ラフ画を比較してイメージ・発想面での変化を検討したところ、各年度や3年分の合計において、向上したと思われる生徒数が他の評価に比べて最も多かった。第2回鉛筆ラフ画と第3回着色完成画との比較や第1回鉛筆ラフ画と第3回着色完成画との比較でも同様の結果を得た。

この結果について、話し合いにより他者と共に築いたイメージ・発想の構築がその要因として大きく関わっていると思われる。そもそも作品制作の際、イメージをしたりデザインを構想するには個の内なる発想に従い始まるが、さらなるイメージと発想の飛躍や具体性を求める場合、外的な刺激に接することは作品の完成度に大きく影響を与える。舞台美術家も絵画、映

画、音楽、様々な書物などに作品のイメージと発想を求め研究し「美術打ち合わせ」での他分野とのイメージの摺合は、結果として自身のイメージ・発想の高まりに繋がっている。「美術打ち合わせ」に相当する「合評会」でも他者からの意見に答えることで発想が広がったり、また、ことばを発し語ることが、埋もれていた発想を引き出しイメージが豊かになったと思われる。合評会を体験しイメージ・発想が向上した生徒は「人の意見がカギとなって、自分の引き出しがどんどん開いていってすごいなあ。話し合うのって大切だなあ、と思いました。」「人と話さずやると自分の世界だけど、人と話すといろいろ増える。」と、話し合いや意見をすることでイメージ・発想を高めていった体験を述べ合評会の意義を記している。

また、各作画の比較で向上が見られた点について「(第2回鉛筆ラフ画について) 1回目の合評会を参考に考えてみようと思った。」「1回、2回、3回と絵にすることでイメージがもっと広がった。」と、繰り返し作画するプロセスでイメージ・発想が豊かになっていることを実感している記述が見られた。これは、「プロジェクト・ゼロ」の(1)制作の過程(学習の過程)や(2)振り返り(reflection)と捉えることができ、「舞台美術」に準ずる授業の合評会はイメージ・発想面において美術教育としての創造的効果がみられたものと思われる。さらに「自分の中に秘めておかないで他人に話したり意見を聞いたりすることで自分にも利益になり、さらに成長できるのではないかと感じた。」との記述も見られた。他者と関わり率直に話し合うことで自己成長をしたと生徒が感じ取ることができた「合評会」は、技術、発想を高める芸術教育と共に芸術を手段とした人間形成に役立つ意義のある場であるといえる。

2. 第1回鉛筆ラフ画と第3回着色完成画での向上のタイプについて

これまで、技術やイメージ・発想の変化を向上・変化無し・下降の3点から検討した。その結果、両者共に第1回鉛筆ラフ画と第3回着色完成画との比較に於いて、各年度や3年分の合計で向上したと思われる生徒数が他の評価に比べて最も多かった。そして、向上の仕方がタイプによって分かれた為、第1回から第3回の作画を通して、向上→向上→向上と評価された生徒は右肩上がり、最終的に向上はしたが、第1回から第2回の作画で向上し、第2回から第3回の作画で変化が見られなかった生徒は、向上→変化無し、第1回から第2回の作画では変化は見られず、第2回から第3回の作画で向上した生徒は、変化無し→向上とした。

技術面の向上のタイプの分類は図4、イメージ・発想面の向上のタイプの分類は図5に示す。技術面の向

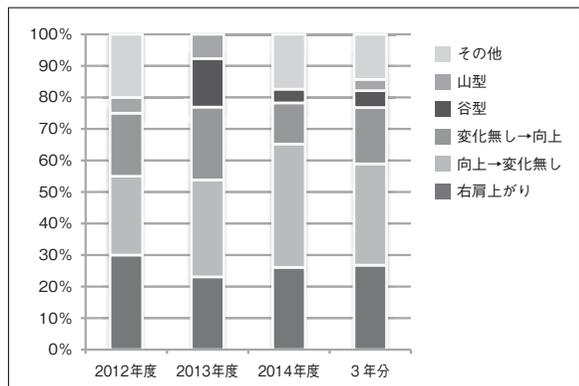


図4 技術面の向上のタイプの分類

上のタイプについて、2012年度は、向上した20名中①右肩上がり30%（6名）②向上→変化無し25%（5名）③変化無し→向上20%（4名）④山型5%（1名）⑤その他20%（4名）、2013年度は、13名中①右肩上がり23%（3名）②向上→変化無し31%（4名）③変化無し→向上23%（3名）④谷型15%（2名）⑤山型8%（1名）、2014年度は、23名中①右肩上がり26%（6名）②向上→変化無し39%（9名）③変化無し→向上13%（3名）④谷型4%（1名）⑤その他18%（4名）、3年分の合計では、56名中①右肩上がり27%（15名）②向上→変化無し32%（18名）③変化無し→向上18%（10名）④谷型5%（3名）⑤山型4%（2名）⑥その他16%（8名）であった。

イメージ・発想面の向上のタイプについて、2012年度は、向上した26名中①右肩上がり46%（12名）②向上→変化無し27%（7名）③変化無し→向上11%（3名）④谷型4%（1名）⑤山型12%（3名）、2013年度は、14名中①右肩上がり36%（5名）②向上→変化無し43%（6名）③変化無し→向上7%（1名）④谷型7%（1名）⑤山型7%（1名）、2014年度は、32名中①右

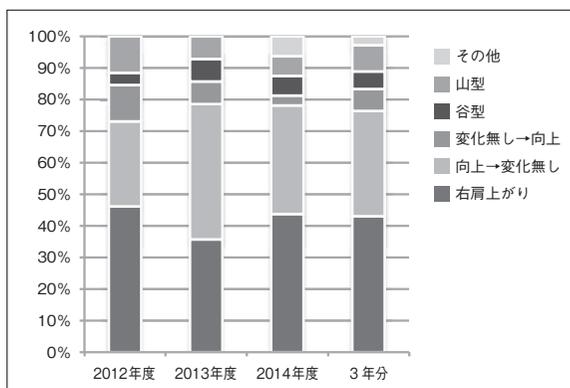


図5 イメージ・発想面の向上のタイプの分類

肩上がり44%（14名）②向上→変化無し35%（11名）③変化無し→向上3%（1名）④谷型6%（2名）⑤山型6%（2名）⑥その他6%（2名）、3年分の合計では、72名中①右肩上がり43%（31名）②向上→変化無し33%（24名）③変化無し→向上7%（5名）④谷型6%（4名）⑤山型8%（6名）⑥その他3%（2名）であった。

技術面の向上のタイプは、各年度と3年分の合計において、①右肩上がり②向上→変化無し③変化無し→向上が上位を占め、3つのタイプを合すると年次順に全体の75%、77%、78%、77%であり、また、ほぼ近似値を示す上位2つの①右肩上がりと②向上→変化無しのタイプを合わせると55%、54%、65%、59%となり半数を占め、向上の上位タイプが各年代で共通している傾向にあることがわかった。②向上→変化無しのタイプは、第1回鉛筆ラフ画から第2回鉛筆ラフ画との比較で向上がみられ第2回鉛筆ラフ画と第3回着色完成画との比較では変化が見られなかった傾向を意味するものであり、やはり、技術面における影響として着色という新たな課題に対する対策が必要であったと考えられる。

同様に、イメージ・発想面の向上のタイプをみると、①右肩上がり②向上→変化無しが上位を占め、2つのタイプを合すると年次順に73%、79%、79%、76%、2013年を除く2012年、2014年、3年分の合計においては、①右肩上がりのタイプが46%、44%、43%と全体の半数近くを占める割合となっている。ここでも向上のタイプは、各年代でほぼ共通していると思われる。

IV. 向上が見られた生徒の事例研究

技術やイメージ・発想面の向上のタイプをみた結果、①右肩上がり②向上→変化無し③変化無し→向上に集約していることが分かり、山型や谷型のような大きな変動を見せずある程度順調な向上を示していることがわかった。次に、上位3つのタイプに該当する生徒についてアンケートの回答と作画の変化から「合評会」の創造的効果について検討を行う。

1. タイプ別にみるアンケートの回答と作画の変化

1-1 右肩上がりで向上した生徒Aさん

まず、3回の作画を通して技術とイメージ・発想が共に右肩上がりで向上した生徒Aさんのアンケート回答の変化は表2のとおりである。そして、Aさんが作画した第1回から第3回の作品は図6である。

生徒Aさんは、当初人と話すことを苦手としていたが、互いに意見をし合うことについては大切なことであるとの考えを持っていた。作品の変化に合わせて記述内容を検討すると、第1回鉛筆ラフ画は部分的な形やデザインは現しているが、背景は手つかずで全体像の把握には至っていない。第2回鉛筆ラフ画をみるとテーブルやドアの配置とデザインが変わり、新たにカーペットや暖炉、壁飾り、クリスマスツリーが描き加えられていた。

第1回グループ合評会については「めんどくさい」という消極的な意識で臨んでいたものの、色んな人の意見を聞いて良かったと感じていたことから、1回目のラフ画で不明瞭であった部分が、合評会での他者意見を聞くことで課題戯曲のもつテーマ性により深くイメージを掘り下げることができ作画に反映したものと思われる。そして、第3回着色完成画は、舞台空間に収めることも配慮し演技者が通る動線や演技エリアの確保にも神経が行き届き、配色の細やかさも見られる。合評会体験による変化について「自分の良さも残しつつ他人目線のものを取り入れる。」と記述してあることから、合評会に於いて他者受容に含まれる可能性に気づき作品に取り入れたものと思われ、その結果、右肩上がりの向上を見せた合評会体験はAさんにとって創造的効果があったと考えられる。

表2 Aさんのアンケート回答の変化

合評会実施前の事前調査	
<p>①人と話すことについて自分は、 ・少し苦手なので克服したい。</p> <p>②人前で話すことについて自分は、 ・人前に出ることは大丈夫だけど、話すということが苦手なので得意でない。</p> <p>③人に意見をすることについて自分は、 ・人の意見を尊重しつつ、自分の意見を伝えられたらいいなと思います。</p> <p>④人の意見を聞くことについて自分は、 ・自分とはまた違った意見を聞くことができるから大切だと思います。</p> <p>⑤人から意見されることについて自分は、 ・自分の案(?)は、完璧でないから客観的に自分の作品を見てもらった意見を取り入れると良い作品になると思います。</p>	
第1回合評会後のアンケート	
1. 合評会について	2. 舞台デザイン画の作成について
<p>1ー1. (グループ合評会を始める前に) グループ合評会を行うことについてどう思いましたか。 ・めんどくさいなど。</p> <p>1ー2. グループ合評会をしてどう感じましたか。 ・色々な意見が聞けて良かった。</p> <p>1ー3. その他、グループ合評について、感じたことを自由に書いてください。 ・自分だけの考えと5人のことをつめこんだ意見は、想像もしていない様なものだった。</p>	<p>2ー1. 舞台デザイン画を作成するということはどう思いましたか。 ・たいへんそう</p> <p>2ー2. 舞台デザイン画を作成してみて、どう感じましたか。 ・楽しかったです。</p> <p>2ー3. その他、「舞台デザイン画の作成」について、感じたことを自由に書いてください。 ・あまり上手に描けないから、大変だなと思った。</p>
第2回合評会後のアンケート	
1. 合評会について	2. 舞台デザイン画の作成について
<p>1ー1. 2回目のグループ合評会を行うことについてどう思いましたか。 ・前より有意義な時間にできた。</p> <p>1ー2. 2回目のグループ合評をして、どう感じましたか。 ・自分ではわからなかったけど、2枚目の方が上達していたらしく嬉しかった。</p> <p>1ー3. その他、グループ合評について、感じたことを自由に書いてください。 ・みんなのアイデアが良くなっていて、人それぞれ感じ方が違うなと思った。</p>	<p>2ー1. 1回目の合評会をして、又、舞台デザイン画を作成するということはどう思いましたか。 ・個人の読みとり方の違いや個性が良く出ていて良いなと思った。</p> <p>2ー2. 1回目と比べて2回目の作品についてどう感じましたか。完成の違い・イメージのとらえ方・自分の意見等、気づいたことを自由に書いてください。 ・1回目は立体的に見えなかったり「ん〜、そこそうするのか。」ってところも、2回目は全部立体的になっていたし、じっくりくけどその中でも面白さがあって良かったです。</p> <p>2ー3. その他、「舞台デザイン画を繰り返し作成することについて、感じたことを自由に書いてください。 ・自分の絵の上達だけでなくアイデアが広がった。</p>
第3回合評会後のアンケート	
1. 合評会について	2. 舞台デザイン画の作成について
<p>1ー1. クラス合評会を行うことについて、どう思いましたか。 ・最初はめんどくさいなあと思いました。</p> <p>1ー2. クラス合評をして、どう感じましたか。 ・自分だけの狭い視野でとらえるだけでなく、他の人の個性溢れた作品がたくさんあって、楽しかったし、新しい刺激になりました。</p> <p>1ー3. 「グループ合評をした後にクラス合評会をすること」について、感じたことを自由に書いてください。 ・グループとは違って大人数だし色々な意見が来るからドキドキするなと思いました。</p>	<p>2ー1. 舞台デザイン画を作成するということはどう思いましたか。 ・絵を描くのは好きだから抵抗はなかったです。</p> <p>2ー2. ラフ画を1回目・2回目のと描いたうえで、完成画を作成することについてどう感じました。作品についてイメージのとらえ方・自分の意見等、気づいたことを自由に書いてください。 ・1回目と2回目のものが全く違う雰囲気になったので、1回目良かったところを残しつつ、2回目のものを取り入れると考えたらむずかしいな、と。</p> <p>2ー3. その他、「舞台デザイン画を繰り返し作成すること」と、その作品の合評会をすることについて、感じたことを自由に書いてください。 ・人の意見もひとつの参考として、絵に取り入れることができたし自分の作品を皆で共有できて良かったです。</p>
合評会体験による、経験と変化についてのアンケート	
A. 経験について	B. 変化について
<p>合評会をしてどんなことを経験したと感じましたか？ 感じたことを自由に書いてください。</p> <p>(1回目の回答) ・自分の意見を話し、賛成又は否定してもらうことの大切さ。</p> <p>(2回目の回答) ・人と話し合っって良いものを作っていくということ。自分の個性を広げて他人を入れると変わった良い作品ができること。</p> <p>(3回目の回答) ・人から意見や質問、アドバイスをもらったり、作品自体を見てもらうことの大切さや自分の作品について説明の際に、より詳しく、簡潔に言うこと、丁寧にいうことの大切さを知りました。結果、コミュニケーションが必要だなと思った。</p>	<p>合評会をしてどの様な点が、どの様に変化したと感じましたか？ 感じたことを自由に書いてください。</p> <p>(1回目の回答) ・一人だけの小さな考えが、皆のアイデアにより大きく自分の構想が変わった。</p> <p>(2回目の回答) ・絵に自信がなかったけど自信が少し持てる様になった。変なアイデアでも面白いと思ってくれる人がいてやりやすかった。</p> <p>(3回目の回答) ・人に意見されて、自分の意思？を変えすぎないこと。自分の良さも残しつつ他人の目線のものを取り入れる。</p>

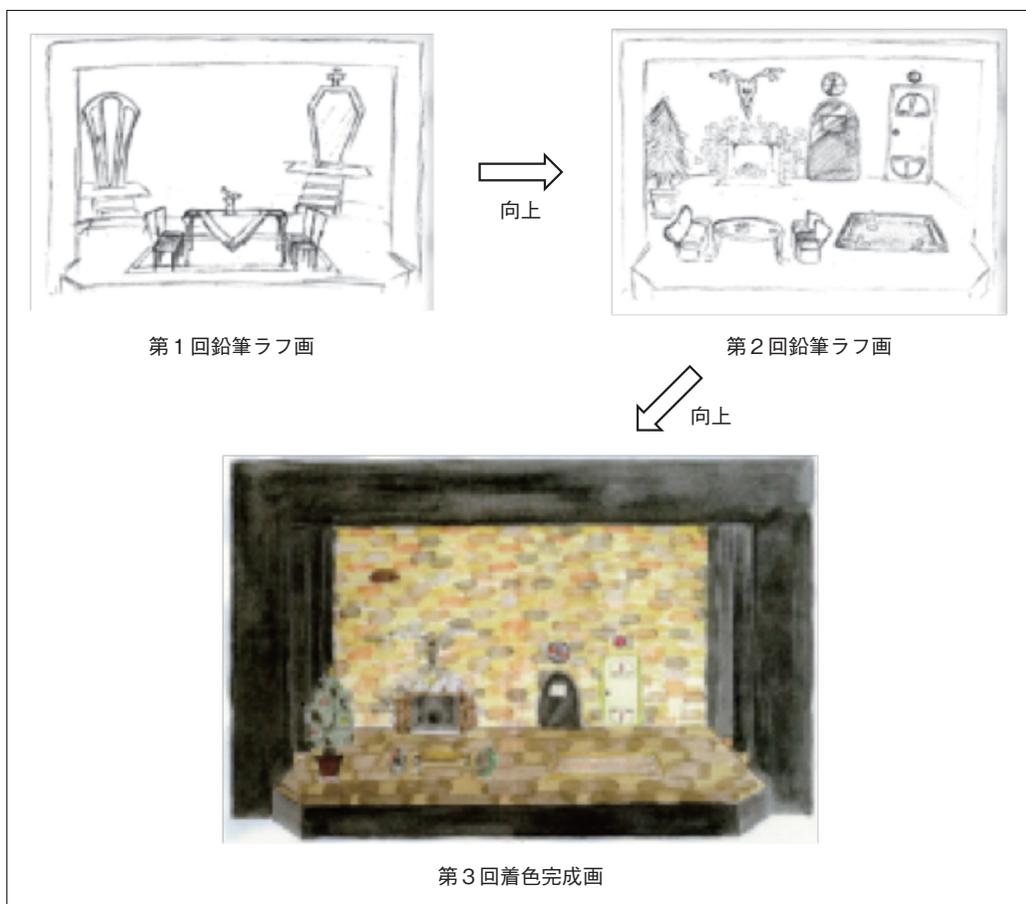


図6 Aさんのデザイン画の流れ

1-2 向上→変化無しタイプの生徒Bさん

次に、3回の作画を通して作画技術とイメージ・発想が共に向上→変化無しタイプ生徒Bさんのアンケート回答の変化は表3の通りである。そして、Bさんが作画した第1回から第3回の作品は図7である。

生徒Bさんは、事前調査より人と話や意見をしたりすることが好きで、意見をされることも肯定的に捉えていたとみられる。作品を見ると、3作品全てにおいて確たるイメージや構想を抱いている様だが、第1回鉛筆ラフ画から第2回鉛筆ラフ画で変化が見られ、^{しもて}下手（左側）に空枠の入り口が追加され、不自然な暖炉の位置も修正して奥の壁に配置している。そして、クリスマスを感じさせるプレゼントやテーブルの上にミニツリーが追加されている。

第1回グループ合評会后、他者からの意見や自分自身の発言に「発見があった」と記述していることから新たな閃きが喚起されたと考える。そして、第3回着色完成画は、全体のイメージや構想に変化は見られないが透視画法に準じた作画になっており物の見え方が安定し、ま

表3 Bさんのアンケート回答の変化

合評会実施前の事前調査	
<p>①人と話すことについて自分は、 ・特に苦手意識はありません。得意という訳でないですが好きではあります。でも、初対面の人は苦手です。</p> <p>②人前で話すことについて自分は、 ・苦手ではないと思います。誰かに自分の意見を聞いてもらうのは楽しいです。</p> <p>③人に意見をすることについて自分は、 ・思ったことは積極的に言います。でも、相手を傷つけると嫌なので言い方は気をつける様に努力はしています。</p> <p>④人の意見を聞くことについて自分は、 ・なるべく肯定的に受け取る様にしています。誰かの考えには自分に無かったものがあるので聞くのが楽しいです。</p> <p>⑤人から意見されることについて自分は、 ・自分が良いと思って出した考えに意見されるわけなので「そういう見方があるのか。」という意見が沢山あって勉強になります。</p>	
第1回合評会後のアンケート	
1. 合評会について	2. 舞台デザイン画の作成について
<p>1-1. (グループ合評会を始める前に) グループ合評会を行うことについてどう思いましたか。 ・皆の意見や考えを聞けると思い嬉しかったです。</p> <p>1-2. グループ合評をしてどう感じましたか。 ・色々な意見を聞いて「そんな考えがあるのかな。」という発見がたくさんあって面白かったです。</p> <p>1-3. その他、グループ合評について、感じたことを自由に書いてください。 ・自分のかいたものの中で相手から質問されることで、「私はこういう理由で描いたのか。」という発見がありました。</p>	<p>2-1. 舞台デザイン画を作成するというをどう思いましたか。 ・最初は初めてのことで不安と色々ありました。でも、やってみたいというわくわくがすごかったです。</p> <p>2-2. 舞台デザイン画を作成してみて、どう感じましたか。 ・描いていくうちにイメージがどんどん膨らんできてすごく楽しかったです。戯曲を読んで感じたことを形にするという楽しさを感じました。</p> <p>2-3. その他、「舞台デザイン画の作成」について、感じたことを自由に書いてください。 ・自分がイメージした世界を形にして表現することがこんなに楽しいとは思いませんでした。</p>
第2回合評会後のアンケート	
1. 合評会について	2. 舞台デザイン画の作成について
<p>1-1. 2回目のグループ合評会を行うことについてどう思いましたか。 ・再び他の人と意見交換をするのは良いと思った。</p> <p>1-2. 2回目のグループ合評をして、どう感じましたか。 ・新しく変えたところをほめられたりして、嬉しかった。</p> <p>1-3. その他、グループ合評について、感じたことを自由に書いてください。 ・色々意見聞いて楽しかった。</p>	<p>2-1. 1回目の合評会をして、又、舞台デザイン画を作成するというをどう思いましたか。 ・さらに自分の作品に磨きをかけられるのが良いと思った。</p> <p>2-2. 1回目と比べて2回目の作品についてどう感じましたか。完成の違イ・イメージのとらえ方・自分の意見等、気づいたことを自由に書いてください。 ・そんなに変えなかったけど、結構良くなったと思う。2回目の方が楽しかった。</p> <p>2-3. その他、「舞台デザイン画を繰り返し作成することについて、感じたことを自由に書いてください。 ・案を出して話し合いをしての繰り返しで、どんどん完成度が上がっていくと思った。</p>
第3回合評会後のアンケート	
1. 合評会について	2. 舞台デザイン画の作成について
<p>1-1. クラス合評会を行うことについて、どう思いましたか。 ・みんなの作品を見て新しい発想を知り、自分の作品に対する色々な角度からの意見を聞けるいい機会だと思いました。</p> <p>1-2. クラス合評をして、どう感じましたか。 ・自分の中に今まで無かった新しい考え方を知って「ああ、そんなこともできるのか。」「そんなやり方もありだな。」と勉強になりました。また、自分の作品の今まで見えていなかった落とし穴が見つかったんです。</p> <p>1-3. 「グループ合評をした後にクラス合評会をすること」について、感じたことを自由に書いてください。 ・何回か少人数のグループで互いの作品の欠点を指摘し、また、他の人の作品から刺激をもらって作品がより良くなった上でクラス合評会をするのがすごく良いことだと思いました。</p>	<p>2-1. 舞台デザイン画を作成するというをどう思いましたか。 ・全くやったことのないことだったので不安はありましたが、自分で考えて作り出すことにワクワクしました。</p> <p>2-2. ラフ画を1回目・2回目と描いたうえで、完成画を作成することについてどう感じました。作品についてイメージのとらえ方・自分の意見等、気づいたことを自由に書いてください。 ・最初は1回でいいじゃん、と思っていましたが、実際には3回描くことでどんどん元の作品の欠点をなくし、より良く面白いものを作ることができたので、3回やることに、とても意味があるのだと感じました。</p> <p>2-3. その他、「舞台デザイン画を繰り返し作成すること」と、その作品の合評会をすることについて、感じたことを自由に書いてください。 ・台本を読んで自分でデザインを考え、形にして自由に世界を造り上げた上でそれを人に見て、聞いてもらえること、そしてそれに、意見してもらい向上させていけること、これがすごく楽しくて気持ちが良かったです。</p>
合評会体験による、経験と変化についてのアンケート	
A. 経験について	B. 変化について
<p>合評会をしてどんなことを経験したと感じましたか？感じたことを自由に書いてください。 (1回目の回答) ・普段自分に意見について周りと話し合うということをしないので人の意見を聞く事ってすごく自分のためになるし、発見があって楽しいなと思いました。また、自分の意見を人に聞いてもらうのはとても気持ち良く、楽しかったです。</p> <p>(2回目の回答) ・自分の意見を人にははっきり伝えること。相手の意見を受け止めること。それを踏まえて良いものを作ること。</p> <p>(3回目の回答) ・模範的に舞台美術のことを学び、自分で作品の世界観を表現すること。そして形として作る事がいかに難しいか知りました。</p>	<p>合評会をしてどの様な点が、どの様に変化したと感じましたか？感じたことを自由に書いてください。 (1回目の回答) ・色々な事が気づける様に意識したので、よく相手の話を聞いてその中で自分の意見を言えるようになったと思います。</p> <p>(2回目の回答) ・なるべく相手の作品に何か意見が出せる様にがんばろうと思った。</p> <p>(3回目の回答) ・人前で話すことがすごく楽しくなったように思います。人に自分の意見を言い、それを真面目に聞いてくれる人がいて、意見をくれることが嬉しいと感じる様になりました。</p>

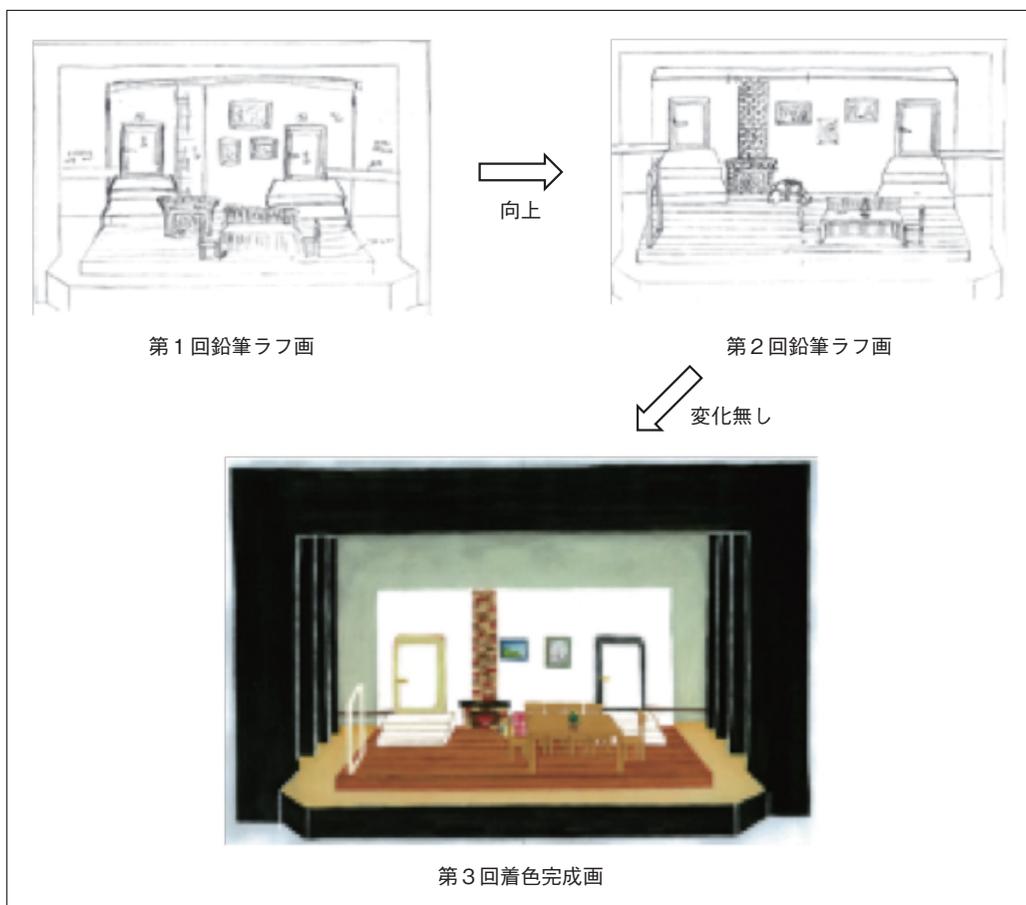


図7 Bさんのデザイン画の流れ

た、人物が使用する際、その大きさも自然な状態に近づいている。第3回クラス合評会後の記述で、2回のグループ合評会で行った内容について「何回か少人数のグループで互いの作品の欠点を指摘し」と、積極的な取り組みを報告しその努力が作画の技術向上に繋がる形になったものと思われる。もともと意見交換をすることが好きと肯定的であったBさんは、「合評会」を楽しみと同時に勉強になったと捉え、自分では気づかなかった欠点を修正でき完成度を高める機会にしたことから創造的効果があったと考えられる。

1-3 変化無し→向上タイプの生徒Cさん

3回の作画を通して作画技術とイメージ・発想が共に変化無し→向上タイプ生徒Cさんのアンケート回答の変化は表4のとおりである。そして、Cさんが作画した第1回から第3回の作品は図8である。

生徒Cさんは、事前調査より、人前で話すことは得意ではないが人に意見をしたり聞くことは積極的に取り入れているとみられる。昨品については、第1回鉛筆ラフ画と第2回鉛筆ラフ画で、暖炉の有無や構造の変化はあるが向上とは見られず整理しかねている状態と思われる。

第2回グループ合評会後の記述に「自分の頭にあるイメージがうまく絵に出せなくて、合評会でうまく伝えきれなかったのが難しいと思った。」と振り返り「みんな、1回目より絵のレベルが上がっていて家具にこだわる人が増えたなと思った。」「みんな1回目の時に周りの人からももらった意見を取り入れていた。」とあり、他の生徒の変化を観察する姿勢が見られた。第3回着色完成画は、描写している全ての素材がバランス良く配置され必要最低限のもので課題戯曲の世界観を表現したとみられ、第1回・第2回鉛筆ラフ画で本人が上手く絵に出せなかったイメージが、第3回着色完成画で表現できるようになったと思われる。これは、上手く絵にできないという問題への解決策を、他の生徒の様子を第1回・第2回グループ合評会で観察することで見出しそれに習ったことが、作品へのイメージ投影が可能となり向上の変化が現われたと思われる。これは、グループ学習の模倣効果を感じさせる結果でCさんにとって「合評会」は創造的効果があったと考えられる。

表4 Cさんのアンケート回答の変化

合評会実施前の事前調査	
<p>①人と話すことについて自分は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余り得意というではないです。友達とか知っている人なら普通に話すことができるのですが、初対面の人になってしまうと全く言葉が出て来なくなります。 <p>②人前で話すことについて自分は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あまり得意ではないです。スピーチをする時とかに人前に出ると、どうしても頭が真っ白になってしまい、たとえ原稿があったとしても文字がスラスラ読めなくなります。 <p>③人に意見をすることについて自分は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に言うようにしています。私は元々思ったことを口に出してしまうので、人に意見を言ったり、指摘したりすることはよくあります。 <p>④人の意見を聞くことについて自分は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に聞き入れる様にしています。人の意見を聞くことは、自分にとってもためになることかもしれないので、とても大切にしていることです。 <p>⑤人から意見されることについて自分は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け止められない時もあります。相手からアドバイスなどは素直に受け入れられるのですが、自分に不利なことを言われたりすると、負けず嫌いなのが出てしまって少しカッとなってしまいう時もあります。 	
第1回合評会後のアンケート	
1. 合評会について	2. 舞台デザイン画の作成について
<p>1-1. (グループ合評会を始める前に) グループ合評会を行うことについてどう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もともと自分の思っていることを話すのが苦手なので少し抵抗がありました。 <p>1-2. グループ合評をしてどう感じましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思っているイメージがなかなか言葉にできなくて皆に伝わったか心配です。 <p>1-3. その他、グループ合評について、感じたことを自由に書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭にあるイメージを上手く言えなくて、「こんな感じ。」みたいな、話しているうちに自分のイメージがわからなくなりました。 	<p>2-1. 舞台デザイン画を作成するということはどう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵は得意ではないので、きちんと取り組めるか心配でした。 <p>2-2. 舞台デザイン画を作成してみて、どう感じましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頭の中にイメージがあるにも関わらず、家具を描く事だけでも手こずってしまい思う様に進まなかった。 <p>2-3. その他、「舞台デザイン画の作成」について、感じたことを自由に書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のイメージが完全にはっきりしないまま描いてしまったので、どんどん迷ってきてしまった。
第2回合評会後のアンケート	
1. 合評会について	2. 舞台デザイン画の作成について
<p>1-1. 2回目のグループ合評会を行うことについてどう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の「デザイン作成シート」の進め方に沿って自分の意見を言うことができたので、今回その様にやりたいと思った。 <p>1-2. 2回目のグループ合評をして、どう感じましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回より、他の人の自分の中のイメージが強くなっていて意見を出しやすかった。 <p>1-3. その他、グループ合評について、感じたことを自由に書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんな1回目より絵のレベルが上がっていて家具にこだわる人が増えたなと思った。 	<p>2-1. 1回目の合評会をして、又、舞台デザイン画を作成するということはどう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の頭の中にあるイメージがうまく絵に出せなくて、合評会でうまく伝えきれなかったのが難しかった。 <p>2-2. 1回目と比べて2回目の作品についてどう感じましたか。完成の違い・イメージのとりえ方・自分の意見等、気づいたことを自由に書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皆1回目の時に周りの人たちからもった意見を取り入れていた。 <p>2-3. その他、「舞台デザイン画を繰り返し作成すること」について、感じたことを自由に書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう一度描くことで、1回目より自分のイメージしたデザインをより絵に表すことができた。
第3回合評会後のアンケート	
1. 合評会について	2. 舞台デザイン画の作成について
<p>1-1. クラス合評会を行うことについて、どう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品に対しての考え方や思いをみんなに聞いてもらえるいい機会だと思った。 <p>1-2. クラス合評をして、どう感じましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人それぞれの考え方があって、一つの作品(同じ戯曲)でも、イメージするものは全く違うものになっているのが面白いと思った。 <p>1-3. 「グループ合評をした後にクラス合評会をすること」について、感じたことを自由に書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人前で自分の意見やイメージを伝えることは中々無いので、みんなの意見を聞けたといい経験になったと思う。 	<p>2-1. 舞台デザイン画を作成するということはどう思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵を描くのが得意ではないので、自分の考えを描き表せるか心配だった。 <p>2-2. ラフ画を1回目・2回目で描いたうえで、完成画を作成することについてどう感じました。作品についてイメージのとりえ方、自分の意見等気づいたことを自由に書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間が経つにつれて、どんどん色々なイメージが思い浮かんでくるのが楽しかった。 <p>2-3. その他、「舞台デザイン画を繰り返し作成すること」と、その作品の合評会をすることについて、感じたことを自由に書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思ったことを相手に伝えることは、とても大切なことなんだなと思った。
合評会体験による、経験と変化についてのアンケート	
A. 経験について	B. 変化について
<p>合評会をしてどんなことを経験したと感じましたか? 感じたことを自由に書いてください。</p> <p>(1回目の回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思っているイメージを上手く言葉に表し相手に伝えることの大切さ。 <p>(2回目の回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の頭の中にある意見をみんなに伝える難しさを経験した。 <p>(3回目の回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・舞台美術の世界は、一人だけの力ではできないものではないと実感しました。相手からの意見なども取り入れて、皆んで作品を作っていく楽しさを経験しました。 	<p>合評会をしてどの様な点が、どの様に変化したと感じましたか? 感じたことを自由に書いてください。</p> <p>(1回目の回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のイメージを尊重しながら、自分の意見も含めてアドバイスできるようになった。 <p>(2回目の回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手からの意見を素直に聞き入れられるようになった。 <p>(3回目の回答)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を伝えられる能力が上がったと思う。堂々と人前に立つことができるようになった。

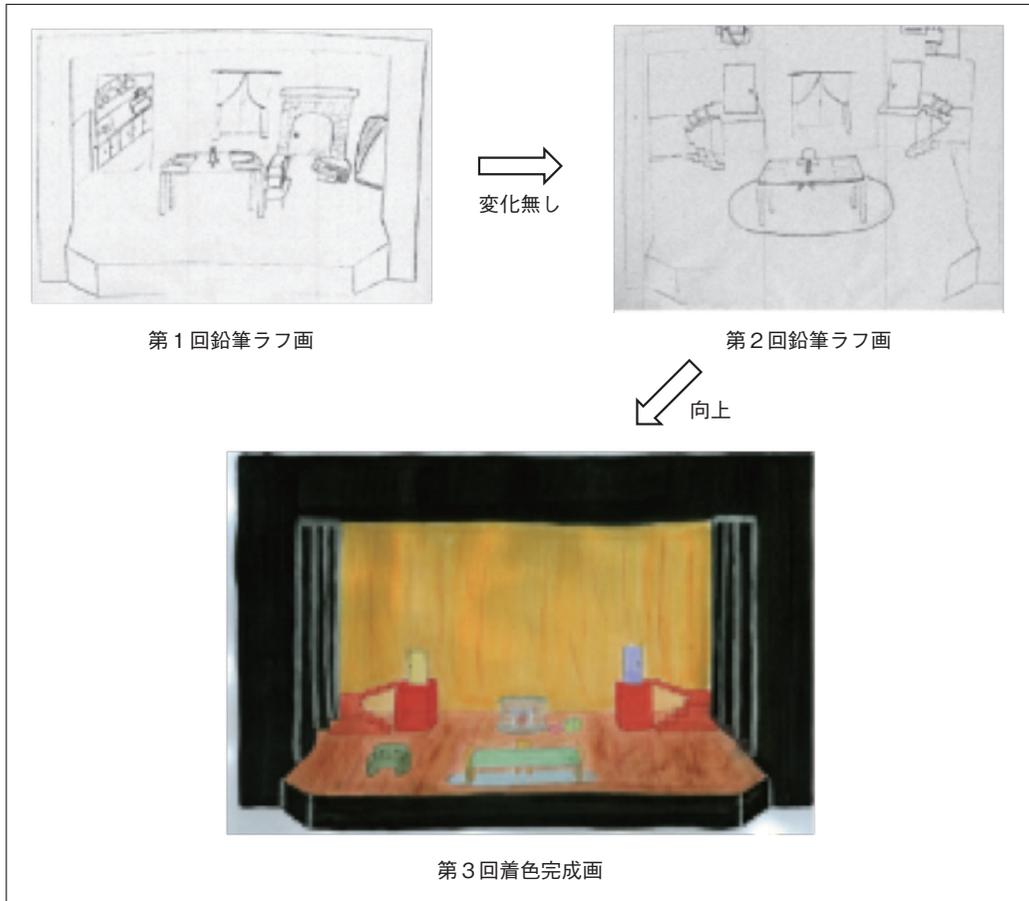


図8 Cさんのデザイン画の流れ

2. 結果と考察

技術やイメージ・発想面における向上の、上位3つのタイプに該当するそれぞれの生徒について、アンケートの回答と作画の変化から「合評会」の創造的効果について検討を行った。3名の生徒は、「合評会」体験を通じ、何れも他者と話し合いによる関わりが、作画に良い影響を与えているとの気づきを得て、他者意見を受容したり考え直したりしたことが作品にも反映し、向上という形で表れていた。この結果から、上位3つのタイプに該当する生徒について、「合評会」体験は創造的効果があったと考えられる。

V. まとめと今後の課題

以上のように、「舞台美術」に準ずる授業を体験した高校生に創造的効果がみられるか、舞台美術の「美術打ち合わせ」に相当する「合評会」を通じて、作画技術の向上とイメージ力や発想の広がり的一面から検討を行った。

その結果、技術面においては第1回鉛筆ラフ画と第2回鉛筆ラフ画との比較、第1回鉛筆ラフ画と第3回着色完成画との比較で向上がみられ、3回の作画を通じて①右肩上がり②向上→変化無し③変化無し→向上のタイプが各年代で全体の7割を超え、大半の生徒は大きな変動を見せずに向上したと思われる。また、イメージ・発想面においては第1回鉛筆ラフ画と第2回鉛筆ラフ画、第2回鉛筆ラフ画と第3回着色完成画第、第1回鉛筆ラフ画と第3回着色完成画との比較全てにおいて向上がみられ、変化のタイプは①右肩上がり②向上→変化無しのタイプが各年代で全体の7割を超え、技術と共にイメージ・発想面においても大きな変動を見せずに向上をしたといえる。

また、「合評会」体験と技術面やイメージ・発想面で共に向上したとみられる生徒について、事前調査で、人と話し合うことが苦手、話や意見をするのが好き、得意ではないなど意識に統一はみられなかったが、「合評会」体験後の記述には、共通して他者からの意見に発見を見出したり、また、自ら意見をするので気づきを得て作品に反映をしていることから、他者と関わり話し合うことが、作画技術の向上とイメージ力や発想の広がりを後押ししたと考える。そして、話し合うことや意見し合うことへの得意・不得意に関わらず、回数を重ねて行うことも向上へとつながっていったと思われる。向上のタイプ③変化無し→向上は、第1回合評会での話し合いから向上がみられなくても、第2回合評会での2回目の話し合いが「学びの場」の継続となり、第3回着色完成画に効果が表れたということでもあることから、「合評会」を繰り返し行うことも技術やイメージ・発想を向上させる要因の一つと考えられる。

研究結果より、「合評会」には「他者と関わり話し合うこと」「繰り返し行うこと」が備わっており、生徒の作画に対する気づきを導き、それが作品にも反映されて、作画技術の向上とイメージ力や発想の広がりに繋がっていた。このことから、舞台美術に準ずる授業体験は、創造的効果があったものといえる。そして、本研究の「合評会」の基盤になっている、「美術打ち合わせ」を行う舞台美術は、舞台芸術活動に留まらず、美術教育としての可能性を含んでいると考える。

今後の課題は、本研究で検討ができなかった谷型や山型のような変動のある生徒についても、「舞台美術」に準ずる授業の「合評会」体験によって創造的効果がみられるか検討をする必要がある。さらに、他者の意見や考えに触れ、得た気づきや発見を自分の作品にフィードバックし完成するプロセスを生徒自身の力によって行う点から、生徒の「舞台美術」に準ずる授業への積極性や取り組み意識と、向上、変化無し、下降の各タイプとの関連調査に即した形で、授業の「合評会」体験により創造的効果の現われ方や、舞台美術に含まれる美術教育としての可能性の検討を深める必要がある。

【注】

- 1) 文部科学省 (2009). 現行学習指導要領・生きる力 第2章各教科第6節 美術 (2014年1月28日更新) <http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/vourvou/chu/bi.htm>
- 2) 大山, 田口 (2013) は, 協調学習プロセスは常時一緒に取り組む過程において, 交渉や知見の共有といった相互作用の中で学びが起こることが明らかになっている (STAHL *et al.* 2006), と紹介している.
- 3) 江川 (2010) は, 小学校国語科の説明文読解学習において, 読解が苦手な児童が得意な児童の問題解決の思考過程を模倣することにより学習への動機づけと読解力の高まりを明らかにした.
- 4) 1967年, ハーバード大学教育学の大学院で哲学者ネルソン・グッドマンの指揮のもとに創立された学際的研究グループで, テーマは芸術における創作活動および鑑賞活動に関する基礎研究である.
- 5) (1) 制作の過程 (学習の過程), (2) 振り返り (reflection), (3) 反省的な自問自答, (4) 目標達成, あるいは自己の評価基準, (5) 学習の質
- 6) 目白大学短期大学部研究紀要 (2014). 表1 舞台美術の制作工程に準じて行われた『「舞台美術模擬授業」の流れ』に授業計画を示す. 51号, P88.
- 7) 協同評価は, 担任の教師, 数名の教師, 司会者で構成し, 生徒のポートフォリオについて全員で考察し参加者が意見を述べ合うと, 池内 (2001) は説明している.

【引用文献】

- 江川克弘 (2010). 小集団学習で学習苦手児が得意を模倣することの有効性の検討—小学校国語科の説明文読解の授業を通して—, 教授学習心理学研究, 6-1, 13-28.
- E.W.ワトソン・A.A.ワトソン (1987). 北村考一 (訳) スケッチの画材と技法 エルテ社.
- 池内慈朗 (2001). 美術科ポートフォリオ評価における認知的基礎理論—ハーバード・プロジェクト・ゼロによるポートフォリオの開発—, 大学美術教育学会誌33, 31-38.
- 伊藤憲朔 (1955). 舞台装置の三十年, 筑摩書房.
- 河野国夫 (1969). 舞臺装置の仕事, てすびす叢書31, 未来社.
- 上田淳子 (2009). アサーションの向上を促す心理学的要因—「舞台美術制作」における合評会を通して—, 日本教育心理学会第51回発表論文集, p.142
- 上田淳子 (2010). 「舞台美術制作」の授業における合評会の効果 (1) —アサーションの観点から—, 日本教育心理学会第52回発表論文集, p.775
- 上田淳子 (2011). コミュニケーションスキルとしての「舞台美術」, 日本応用心理学会第78回大会発表論文集, p.108
- 上田淳子 (2013). 「舞台美術制作」の授業における合評会の効果 (2) —授業目的の理解と授業への好意的反応について—, 日本教育心理学会第55回発表論文集, p.361
- 上田淳子 (2013). 「舞台美術授業」体験は自己成長を促す要因となりえるか—向上心と作画の上達を目指した高校生の学習体験報告より—, 日本応用心理学会, 第80回記念大会発表論文集, P.73
- 上田淳子 (2015). 舞台芸術の創造体験でみられるコミュニケーション・スキルの向上について—「舞台美術」模擬授業の合評会を通して—, 目白大学短期大学部研究紀要51号, p.88
- 鷺尾 敦 (2012). グループ学習の効果をあげるためのグループ作り, 高田短期大学紀要31, 55-66.
- 鷺尾 敦・白井 靖敏・下村 勉 (2013). グループ学習におけるファシリテーター役配置の効果, 高田短期大学紀要31, 119-130.